大阪朝日新聞附録

熱河探検畫報

昭和八年十月五日大阪朝日新聞
第壹万八千六百五十號附録

承徳行宮視察の調査團

世界的壯擧・熱河大探檢

極東日本の生命線――滿蒙の地は無限の資源を藏する大寶庫であり、とりわけて熱河は科學の處女地帶として世界學界注視の神祕境であります。目下日滿兩國旗をかざして人類未踏の熱河を躍進しつゝあるわが滿蒙學術調査研究團は滿洲國の依囑と關東軍の後援により理、工學博士德永重康氏を團長とし、動、植物、人類、地質、地層、岩石、鑛物等の各種目にわたる學界の權威を網羅し、名實共にわが國空前の學術大探檢であります。一行は七月二十四日神戶を鹿島立ち新京に入り溥儀執政に謁見、有難き激勵の御言葉を賜はり、ます〱勇躍、八月五日北票から探檢の第一步を踏み出しました。それから朝陽、凌源を探り十五日には承德に入りました。その間スキタイ文化の片鱗をつかみ、大化石層を發見し、大湖沼の跡を見出すなど幾多貴重な收穫をあげました。承德では豪華な離宮の山莊を總解剖しこゝでも山の如き收穫に凱歌をあげました。八月二十四日承德を立つて一行はこの探檢中のクライマックス――熱河最高峰、邦人未踏の五龍山に分けいりました。全團員決死の覺悟で躍進また躍進、遂にこれも征服しました。それから豐寧、隆化、圍場、赤峰、烏丹城、建平を踏査、大體十月下旬にはこの壯擧を完成する豫定であります。東洋文化開發の大使命と日滿親善に力強き標として一行の意氣はいよ〱高いものがあります。わが朝日新聞社はこの大壯擧を賛し特に驟木、島田兩記者を參加せしめ、同調査團の報道權を獨占獲得しました。興趣深き本寫眞はいづれも島田特派員の苦心撮影になるものであります。

團員

團長 早大教授、東大講師 理學博士、工學博士 德永重康氏

生物學部

部長 東大教授、附屬植物園長、理學博士 中井猛之進氏

植物學 東大助手、理學博士 本田正次氏

東大植物學教室勤務、理學士 北川政夫氏

動物學 農林省囑託 岸田久吉氏

京城大豫科教授 森爲三氏

人類學 東大囑託 八幡一郎氏

構造地質、岩石、鑛物學部

部長 前商工技師兼鑛山監督局技師 伊原敬之助氏

上海自然科學研究所員理學士 佐藤捨三氏

地層學、古生物學部

部長 上海自然科學研究所主任 東北大講師、理學博士 淸水三郎氏

東大副手、理學士 松澤勳氏

地理學 東大助教授、理學士 多田文男氏

醫學、衛生狀態調査 奉天醫大、理學士 津留親氏

庶務 早大工學士 小南不二男氏

早大書記 山本武氏

警備隊主任陸軍少佐 村岡龜吉郎氏

地質調査へ躍進

一行は八月八日車を連ねて朝陽の東方十六キロ分頭營子附近の地質調査に向つた。果しなき曠野を彩る綠林、灼きつく大陸の日輪は樹蔭を黃褐色の大地に長くくおとしてゐる

探檢の第一步

調査團の一行は八月五日の早朝、北票から日滿兩國旗を先頭に勇躍探檢の第一步を踏み出した

歩武堂々・科學の戰士
朝陽附近を進軍中のところ

承德の街のスナツプ

轉經

喇嘛廟には必ずつきものの轉經といふものがある。寫眞の如き西藏文字を刻んだ金屬製の圓筒でぐるぐる廻轉出來る

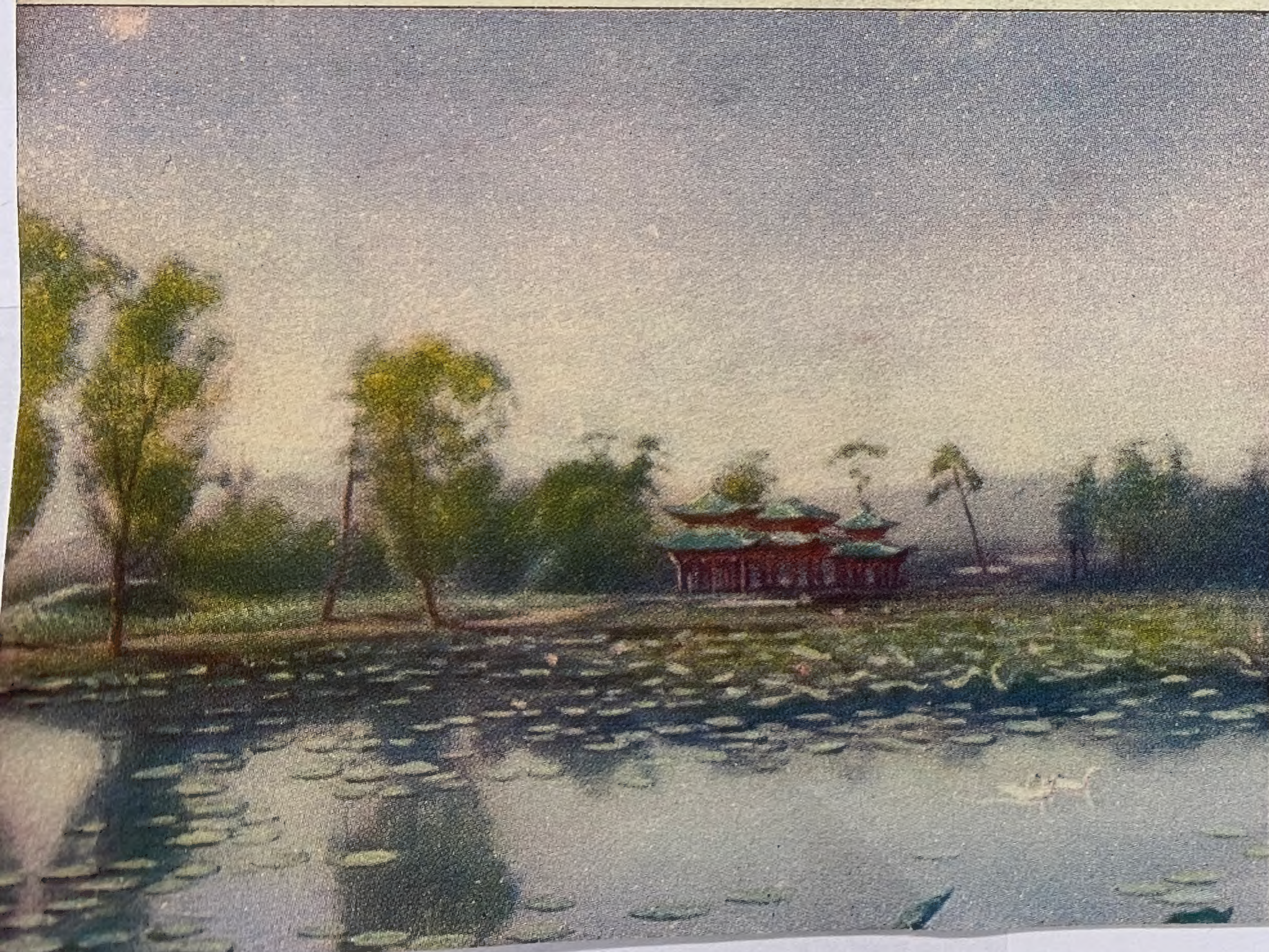
承徳のモダン味

傳統の街をゆくパラソルにも一脈のモダン味はある

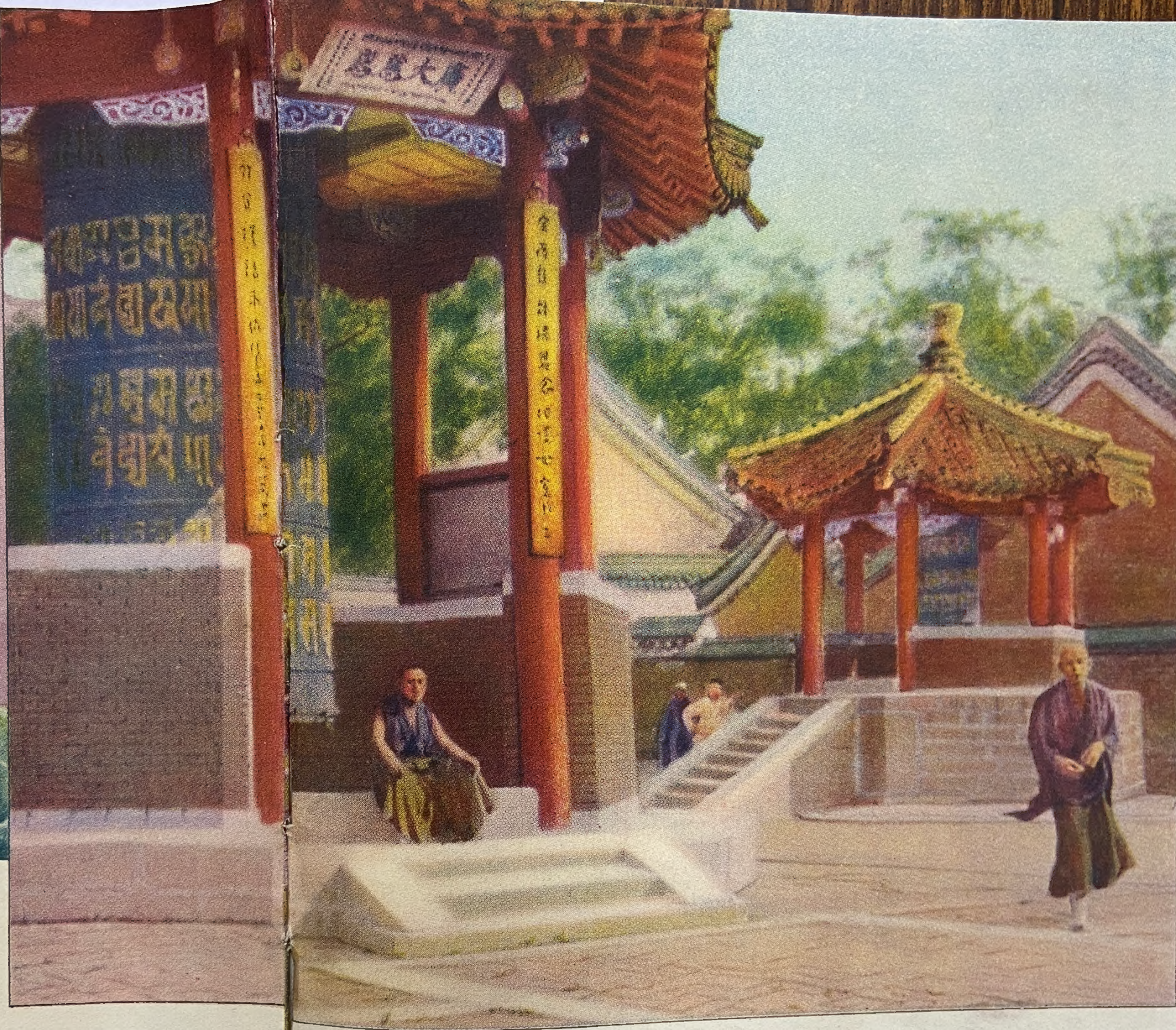
承徳の怪奇

避暑山莊内にある珍瓏塔の一部

熱河の花

けし

かぐはしき秘苑

承徳離宮の泉は二百年以上も手をつけない自然のまゝに水生植物はのびのびと生育し水禽類は悠々と泳いでゐる。花の王者蓮がいまを盛りと咲きこぼれてゐる

駄轎

熱河での主な交通機關。二頭の馬の脊に轎を脊負はせて人を運ぶ

承徳の街のスナップ

轉經

喇嘛廟には必ずつきものの轉經といふものがある。寫眞の如き西藏文字を刻んだ金屬製の圓筒でぐるぐる廻轉出來る

駄轎

熱河での主な交通機關。二頭の馬の脊に轎を脊負はせて人を運ぶ

熱河の花
けし

承徳
避

宛ら水族館・魚の化石
八月十三日王家店で採集

夕陽にくつきりと浮ぶ朝陽のラマ塔

険峻をよぢて

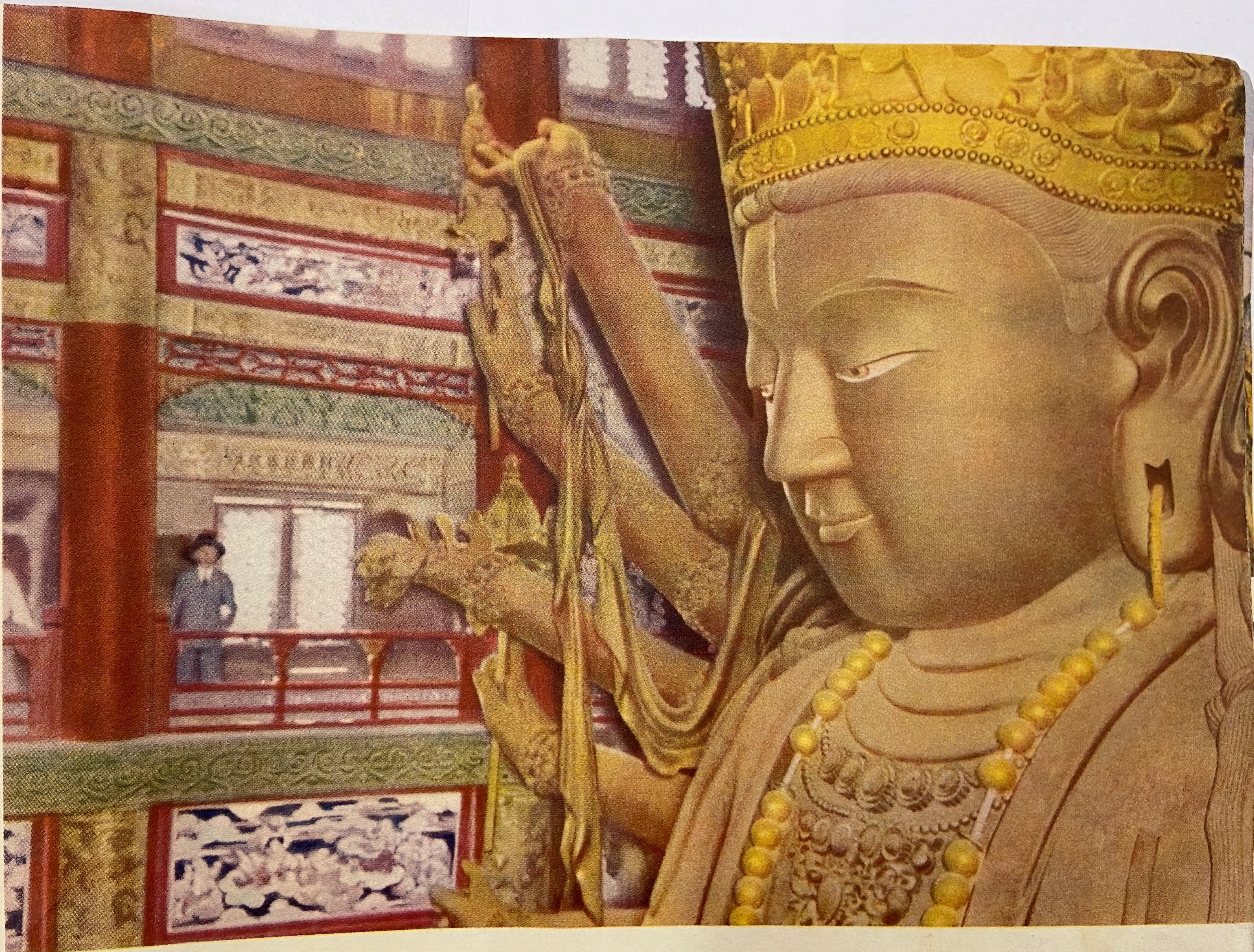
朝陽東方分頭營子附近で化石採集中の一行、警備隊も勇躍任務についてゐる

樹蔭を進む調査團

朝陽の街

水槽

世界一の

木造佛

承德離宮に沿うてそのかみの豪華な夢の謎ふ熱河の流れのかたたに高く低く八大伽藍の美の殿堂が展開する。世界一の木造佛を祕めた大佛寺はその代表的なもの。空を壓する三層樓の中に高さ七丈、寫眞の如き千手觀音が慈光を放つてゐる

麗しき傳統野外劇

調査團が承德滯在中祭禮があり、山手の一角に鎭座する關帝廟の舞台で支那劇が催された。……俳優はことごとく承德の市民だとのことだつたが、いづれは滿朝の盛んだつた時代に北京から行幸の列に加はつてはるばる熱河に來た藝人の子孫でもあらう。石造の舞台といひ、衣裳の立派さといひ巧みな藝風といひ、それに野外觀覽席に居並んだ見物の品位ある身のこなしなどどう見ても夢の國を逍遙してゐる心地がした。

（藤木特派員探檢記の一節から）

鬼ふすべ

鳳凰山（朝陽附近）で中井博士が採集したもの

大佛寺見物の一行

背景に莊嚴な大伽藍の片影を見る

大收穫の日は暮れて

流れ遥い大凌河に日は傾いた。凌源を去る三里餘、王家店へ魚の化石發掘に赴いた科學の戰士たちは思はざる大收穫に雀躍して陣營に歸りを急いでゐる。蒙古馬は秋風にいなゝき、先頭の苦力たちの擔ぐ籠には收穫が重く重く積まれて……

（八月十三日）

空から眺めた長城

古北口附近、流れにとぎれる長城のあたりまことに壮美な景観である。

やどり木

承徳附近の老樹にはこんなに澤山なやどり木が見事です

活躍する本社機

五龍山方面の偵察へ飛び出す直前（承徳にて）

普他拉の壯觀

その背景布を縫つた普陀拉の上空を飛ぶ機上からシャッターを切る　夢のやうな素晴らしい風景だ

山荘第一の獲もの

離宮の山荘總解剖を開始した調査團一行は銃聲秘園に谺すると見る間に見事大雄鹿を射止めた。重量はたしかに三十貫をこえる大ものであつた

秘園の池を探る

水草の思ふさま繁茂する離宮の池で本田博士はしきりと水生植物を採集中である

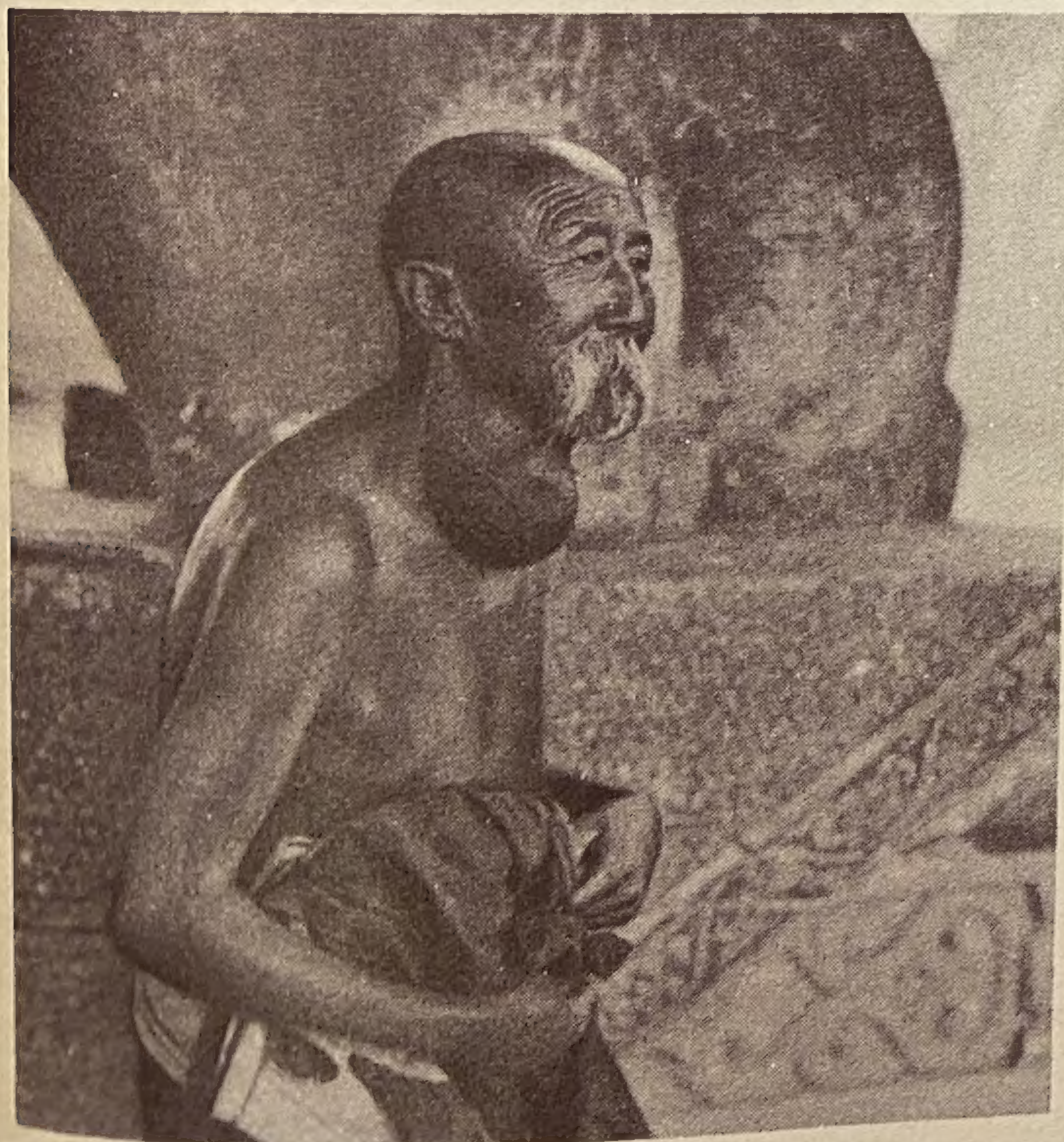
普他拉の壯觀

その昔豪華を誇つた普他拉の上空を飛んで機上からシャッターを切る。夢のやうな麗はしい風景だ

熱河最高峰五龍山

探検中の最難關――熱河の最高峰五龍山(二千五十米)は探査に先立つて本社飯沼機が偵察飛行を決行した。寫眞は古北口方面の萬里の長城附近から遙かかなた雲の冠をいたゞく五龍山を機上から遠望したところ

旅に樂しき野天風呂

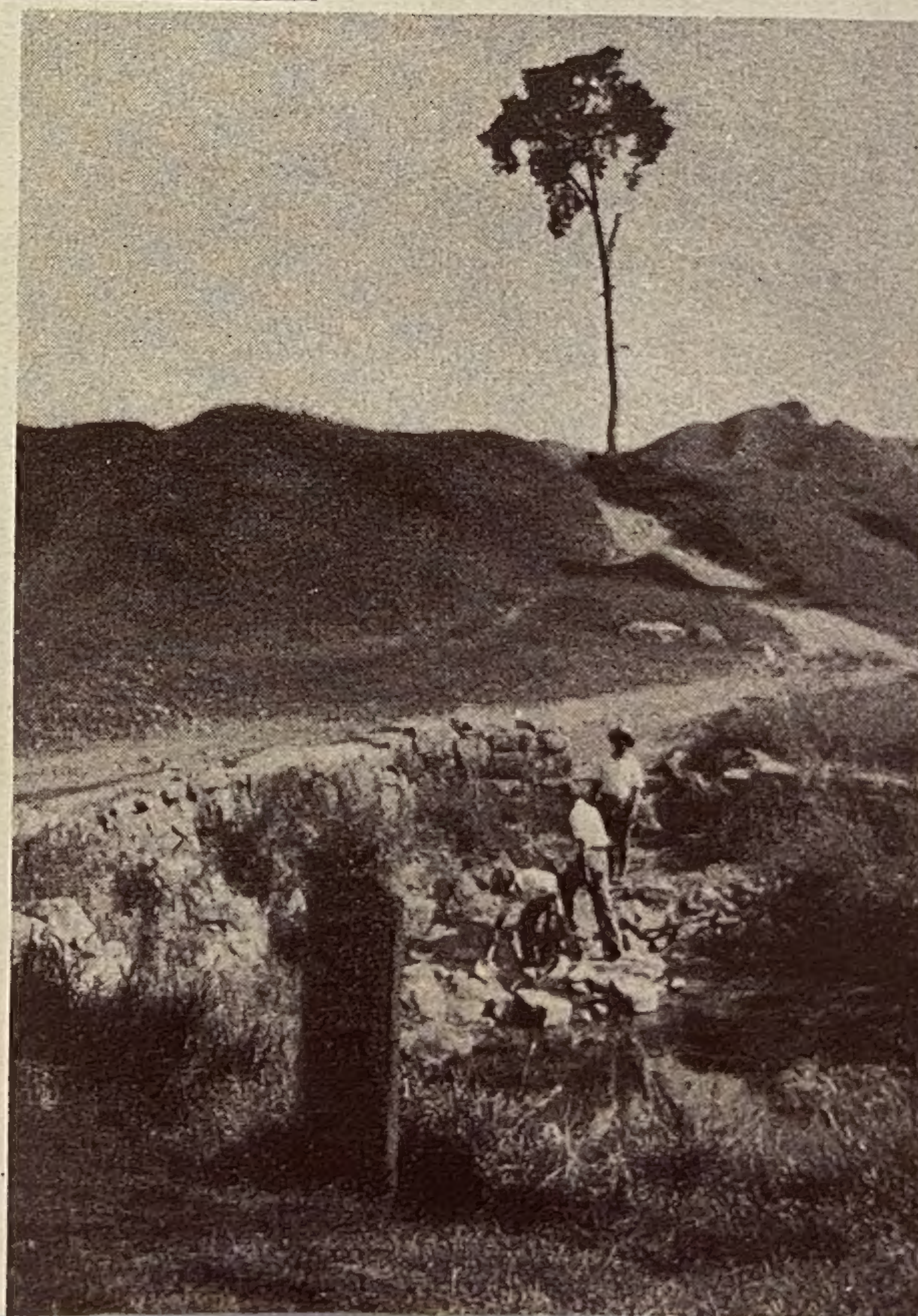
承德の團員宿舎で〝風呂〟につかるは德永團長

緣りの記念碑

離宮内泉のほとりに建てられた熱河の名のおこりをなす古碑

承德の風土病

甲狀腺に異狀を來し惱む姿を御覽下さい

悠々たる隊商

大陸の風光の中を承德へ急ぐ隊商

興隆縣の市街

探検隊に加はつた本社飯沼機が五龍山の偵察飛行の途、發見した地圖にない興隆縣の街

承德羅漢寺視察

の德永閣長の一行

水光る大凌河

H·B凸版印刷株式會社大阪支工場製所

大阪朝日新聞社發行